

編集後記

グローバル化の猛威が先進社会の深部をも捉え、深刻な雇用不安やコミュニティの解体を背景に鬱積する不満・不安のはげ口がマイノリティや移民といった手近な他者に向けられている。身勝手な排外主義を掲げて世界を振り回すアメリカの新大統領だけではない。フランスのルペン、ドイツのNPD（国家民主党）、オランダのPVV（自由党）、ハンガリーのJobbik（ヨッビク右翼青年協会）、イタリアのLN（北部同盟）等々、排外的なポピュリストたちが国際社会、とりわけ先進的とされる国々の社会で旋風を巻き起こしている。こういう危機的な世界にあって当研究所が何を世界に発信していくのが改めて問われつつある。民主主義・人権・平和・コミュニケーションといった市民社会の諸原理が改めて鍛え直されなければならない。

本号は、こうしてグローバル化への反動の機運が漲る国際社会にあって、一つのフォーカル・ポイントをなす朝鮮半島を特集した。崔正勲論文は、昨年 of 北朝鮮労働党第7回大会での「核兵器の先制不使用宣言」に着目して、近年、暗礁に乗り上げた感のある北朝鮮の核問題に切り結ぶ論考である。必ずしも問題の解決策や方向そのものを提示するものではないが、問題を考える上での前提的な論理や条件の検証として価値ある論考といえる。宋基栄論文は、1960年代の韓国軍のベトナム派兵にともなう米韓関係の変化を、韓国政府が2000年代以降に公開した膨大な外交文書に依拠して検討した論考である。国際関係の理論と実証の巧みな融合の実例となる論文であるといえる。大津論文は、韓国の輸出主導型経済と韓国社会の二極化（格差）構造の二つの問題を最近の豊富な統計資料を活用して「研究ノート」としてまとめ上げた論考である。両者を結ぶ媒介的実態や論理を構築していく基礎的な作業としての意義をもつ論文であるといえる。私の「時評」は朴槿恵政権を事実上退陣に追い込んだ韓国市民社会の動向を検討している。排外的なポピュリズムが吹き荒れる世界での“希望”が象徴的に示される事例として紹介した。最後に加藤会員が、昨年、群像新人賞を受賞して話題となった在日コリアン3世の小説を評した。書評というよりも、不条理な世界での在日コリアンの葛藤を素材にしつつも、マイノリティ差別をめぐるご自身の体験や思いを綴った印象深いエッセイといった趣である。

(2017/01/25 文 京洙)

アジア・アフリカ研究

2017年 第57巻 第1号（通巻423号）

2017年1月25日発行 機関購読料：年間15,000円

編集・発行人 文 京 洙

発行所 特定非営利活動法人
アジア・アフリカ研究所

〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-17-10

Tel&Fax: 03 (3946) 1479

E-mail: aaken@bz01.plala.or.jp

URL: <http://www.aaij.or.jp/>

印刷所 三和印刷(株)
長野県長野市川中島町1822-1

本誌上で各論考の著者がその責任において述べた意見は、特定非営利活動法人（NPO法人）アジア・アフリカ研究所としての見解を表すものではありません。

The articles in *Quarterly Bulletin of Third World Studies* do not represent the views of The NPO Corporation Afro-Asian Institute of Japan (AAIJ). Responsibility for opinions expressed in them rests with their authors.